

「第一回埼玉大学環境科学研究センターシンポジウム」

第一回埼玉大学環境科学研究センターシンポジウム (バイオマス研究と植物科学の最前線) が、7月21日開催された。低炭素社会の構築は、今世紀における最も重要な研究課題の一つである。地球上の二酸化炭素の吸収生命体として、植物が注目を集めている。本シンポジウムは、バイオマス形成の基本的素材である植物の分子、生理、代謝科学などを中心とし、基礎的研究成果の発表を焦点に企画された。当日は、バイオマス研究に関する植物科学の最前線に携わる学内外の研究者が、重要な研究成果を紹介した。先ず、川橋機構長による開会の辞では、本学におけるバイオマス研究の重要性と環境科学研究センターの果たす役割りを強調された。講演は、西山 佳孝 (本学理工学研究科准教授)「光合成とタンパク質合成系の環境応答」、川合 真紀 本学院理工学研究科准教授「NAD代謝改変による植物バイオマス制御」、日原 由香子 本学理工学研究科准教授、「シアノバクテリアの転写因子と環境応答」、小竹 敬久 本学理工学研究科准教授「細胞壁多糖類は糖ヌクレオチドから作られる」、野口 航 東京大学大学院理学系研究科准教授「植物の呼吸系の環境応答」の順序で行われた。本学の発表者は全て、環境科学研究センターの教員を兼務している。質問も極めて学問的な分野から、応用面にわたり熱のこもった質疑応答が繰り広げられた。筑波や都内などから参加された外部の方々にも積極的なご発言をいただいた。環境科学研究センターとしても、本学におけるバイオマス基礎研究を加速させる計画である。最後に、西田副学長による閉会の辞があり、講師及び講演参加者への謝辞と本学の持つユニークな研究体制について紹介があった。



演者の西山佳孝准教授



川合真紀准教授



日原 由香子准教授



小竹 敬久准教授



野口 航 准教授(東京大学大学院)



講演を傍聴する参加者の皆さん。